



新島襄 (1843~1890)

明治時代を代表する教育者。鎖国の禁を破ってでも海外見聞をしたいという強い情熱を持ち、元治元年(1864)6月14日夜、箱館大町築島の波止場から1隻の小舟で沖に出た後、湾内に停泊するアメリカ商船ベルリン号にたどり着き、密出国に成功する。後に、同志社英学校(現同志社大学)を創設。

※写真提供/函館市中央図書館

1 新島襄ブロンズ像



脱国時の新島襄の服装がわかる。

2 新島襄海外渡航碑



新島襄が脱国後、上海で作った漢詩が自筆の碑文として刻まれている。異国への夢と故郷を思う気持ちの間で揺れる心情がふれる内容である。

3 箱館丸



安政4年(1857)新島襄の脱国を手助けた福士卯之吉(福士成豊)とその実父統豊治が造った日本初の西洋式帆船。現在の箱館丸は昭和63年(1988)に復元されたもの。

4 弁天岬台場跡



箱館奉行支配諸術調所教授役武田斐三郎が設計した台場跡。新島襄が箱館に来る目的の一つは、武田斐三郎のもとで学ぶことであった。※写真提供/函館市中央図書館

5 旧旅籠町界隈



このあたりに、新島襄・澤辺琢磨・福士卯之吉らが、酒を酌み交わした茶屋があった。

6 山上大神宮(やまのうえだいじんぐう)



新島襄の友人である澤辺琢磨(坂本龍馬のまたいとこ)が、神職を務めた神社。

7 函館ハリストス正教会



山上大神宮神職澤辺琢磨が、異教を広める司祭ニコライを叩き切ると息巻いて押しかけた教会。その後、ニコライの教えに心酔し、ニコライに日本語を教授する代償として、箱館にやってきた新島襄を司祭宿舎に下宿させた。

福士卯之吉 (1838~1922)

天保9年(1838)日本初の西洋式帆船「箱館丸」を建造した船大工統豊治の子として函館に生まれる。のちに成豊(なりとよ)と改名。回船業福士長松の養子となるが、実父豊治について造船技術を学んだ後、さらなる高度技術を習得するため、イギリス人経営の商会に5年間勤務し語学を身につけた。この間に新島襄と出会い、その後の米国への脱出を支援した。

新島襄ヒストリート ~国禁を破り命がけの渡米!新島襄を支えた函館人~

所要時間 140分 距離 4.7km 消費カロリー 420kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。



撮影オススメポイント!!

- 喫茶・休憩
おみやげ売店
食事処
トイレ
多目的トイレ
駐車場
元町・ベイエリア周遊バス停
バス停

境内には寄進された貴重な遺物が多く、古くから海の守護神として地元漁業者のみならず、松前をはじめ北陸、大阪などの商人の信仰を得ていたことがわかります。

防波堤の設計は、札幌農学校第2期生の廣井勇博士によるもの。クラーク博士が札幌農学校教頭として赴任したきっかけは、新島襄の働きかけがあったからです。

弥生坂を上がって、右に曲がると明治2年(1869)の箱館戦争で戦死した新政府海軍慰霊の墓所があります。碑の石は豪邸「高田屋御殿」の庭園に据えられていた「高田屋の亀石」と呼ばれていた石の一部です。

夏には階段を活かしたステージでイベントが催されます。

洋風・和風・和洋折衷の建築物が立ち並び函館らしい通りです。土産店や喫茶店なども立ち並んでいます。

「チャチャ」とはアイヌ語で「おじいさん」を指し、おじいさんのように腰を曲げて歩くほど急な坂という意味でこの名前がついたそうです。

港に浮かぶヨット越しの赤レンガ倉庫群も人気のアングルです。

海を見通す八幡坂はドラマや映画の舞台として有名な坂です。

新島襄の脱国を手助けた福士卯之吉(福士成豊)の実父統豊治の親戚にあたる。